

米海兵隊MQ-9の嘉手納飛行場への展開期間の延長について

令和 7 年 8 月

防 衛 省

外 務 省

米海兵隊MQ-9の嘉手納飛行場への展開期間の延長について

南西地域周辺での情報収集、警戒監視及び偵察（I S R）活動を維持するため、昨年8月から一時的に展開中の米海兵隊MQ-9（6機以下）の嘉手納飛行場への展開期間を、期間の定めなく延長いたします。

- 令和5年11月に米空軍MQ-9を嘉手納飛行場に展開して以降も、わが国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増す一方であり、これまで以上に日米のI S R能力を一層強化していくことが重要。昨年7月の日米「2+2」においても、日米のI S Rにおける協力関係の一層の深化の必要性を確認。
- こうしたことを踏まえ、米海兵隊は、昨年（2024年）8月から約1年間の予定で、MQ-9（6機以下）を嘉手納飛行場に展開中。
- 米海兵隊MQ-9の嘉手納飛行場への展開により、
 - ・日本の南西地域周辺へのアクセスをより容易にし、同地域周辺でI S R活動を実施する時間を増加させること
 - ・同地域周辺における即時の情報収集ニーズに対応すること
 - ・複数の機体を、より近傍から連続的に運用することにより
周辺国の艦艇・船舶などの特異な行動を見逃さない態勢を取ることが、これまで以上に可能となった。
- こうした点を踏まえて、今般米側より、I S R活動を今後も引き続き維持する必要があることから、展開期間を期間の定めなく延長する旨、説明を受けた。
- なお、変更されるのは展開期間のみであり、機数や人員、運用方法については、これまでと同様。
- 米海兵隊は、引き続き、安全対策、飛行経路、駐機場、航空機騒音規制措置に関して、地元へ配慮しつつ、運用する考え。



尖閣諸島（沖縄県石垣市）



砲を搭載した
領海侵入を繰り返す中国の海警船舶

最近の我が国周辺海空域での各国等の動向

- 中国は、尖閣諸島周辺を含む東シナ海を中心に、我が国周辺海空域での活動を急速に拡大・活発化。一方的な活動のエスカレーションも。
- 北朝鮮は「瀬取り」を含む違法な海上での活動を継続。
- ロシアと中国は東シナ海等において爆撃機による共同飛行を実施。
⇒このような安全保障環境の中、情報収集能力のより一層の強化が必要です。

中国の我が国周辺海空域での活動状況



中国艦艇が尖閣諸島周辺で恒常的に活動

- 2025年3月、過去最長となる92時間以上にわたって中国海警船が尖閣諸島周辺の領海に侵入



北朝鮮による「瀬取り」



日本における米軍無人機の配備状況

無人機は、人的損耗を局限しつつ、長期連続運用※が可能であり、情報収集等の手段として使用が一般化しています。



MQ-9の情報収集能力

MQ-9は、洋上の艦艇・船舶等の活動を高性能センサーで把握する高い能力を有しています。

MQ-9の能力

※ 公開情報に基づくもの

- 光学センサーや赤外線センサーに加え、昼夜問わず、また悪天候においても観測可能な合成開口レーダーなどの各種高性能センサーを搭載
- これらのセンサーにより、夜間も含め、広範囲な海域における艦艇・船舶の所在を把握でき、また、乗員の甲板上での行動といった、不審な艦艇・船舶の活動内容の把握が可能
- 滞空時間：32時間



高性能センサーによって、精度の高い情報を取得

MQ-9が収集できる情報の一例（出典：General Atomics社HP）

MQ-9の概要

MQ-9は、世界各国で安定的に運用されています。

- 情報収集などの多目的で世界各国で運用される無人機
 - 米空軍は300機近くのMQ-9を安定的に運用
 - その他、英空軍、仏空軍、伊空軍等が導入
 - NASAが地球科学調査目的で運用した実績あり
- F-15戦闘機、KC-135等と比べ、軽量、小型で騒音が小さい
- 滞空時間が32時間と長いため、頻繁な離着陸が不要



MQ-9の安全性・騒音

MQ-9は、高い安全性を有しているとともに、騒音は小型機と同程度であり、これまで嘉手納飛行場におけるMQ-9の騒音に係る苦情は、ほぼありません。

- MQ-9は安全を確保するため、複数の飛行制御システムを保持
(仮に一つのシステムが不調でも、残りのシステムによって航空機の制御が可能)
- 米海兵隊・米空軍のMQ-9の事故・事案に伴う死傷者はこれまでなし
- MQ-9は、旅客機と同様に、航空管制に従って飛行するなど、十分な安全確保のための措置を講じる
- MQ-9の騒音は、セスナ172と同程度
(MQ-9の離陸時の騒音は、約120m上空を飛行している時に、地上での騒音は最大75dB程度 (街路沿いの住宅街と同等程度))
- 嘉手納飛行場で運用しているKC-135や戦闘機 (F-15)と比較し、騒音は小さい



セスナ172 (出典：Textron Aviation社HP)

米海兵隊MQ-9の飛行経路と駐機場所について

米海兵隊MQ-9は、既に配備されている米空軍MQ-9と同様に、離陸後、最短距離で洋上へ飛行し、着陸時も同様の経路を飛行することとしており、住宅密集地域上空を極力回避することとしています。

また、駐機場所は、近隣住宅地から相当離れた場所に計画されています。



任務の特性上、夜間、早朝の運用も想定されますが、離着陸回数は、非常に限定的です

MQ-9と他の航空機との比較

F-15



KC-135



MQ-9



機種名	F-15	KC-135	MQ-9
全幅	約13m	約40m	約20m
全長	約19m	約42m	約11m
全高	約6m	約13m	約4m
最大離陸重量	約31t	約146t	約5t
運用速度	約3,000km/h	約930km/h	約330km/h
航続距離	約5,700km	約18,000km	約8,500km
滞空時間	約5時間	約20時間	約30時間
運用高度	～約19,800m	～約15,000m	～約15,200m
離陸時騒 (dB)	109dB	86dB	75dB
初飛行	1972年	1956年	2001年

資料源 : Jane's Unmanned Aerial Vehicles and Targets Issue37、米空軍FACTSHEET、General Atomics Aeronautical System社パンフレット、Northrop Grumman社パンフレット、FAA Advisory Circular 36-3H 05/25/2012 等

無人機のサイズ比較

